

経済・金融 フラッシュ

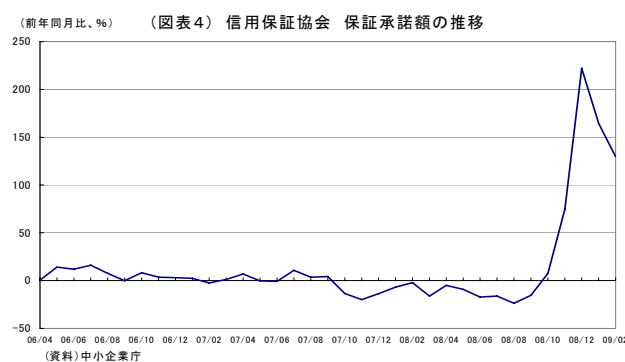
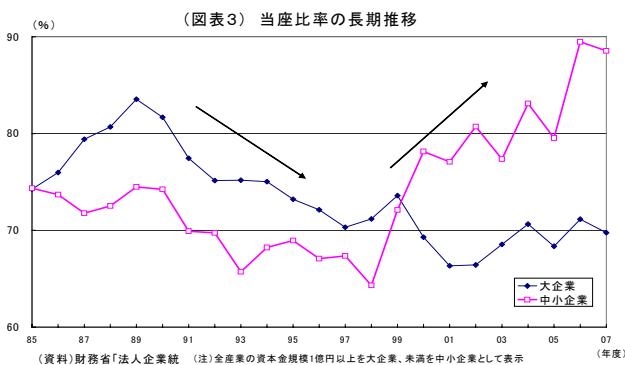
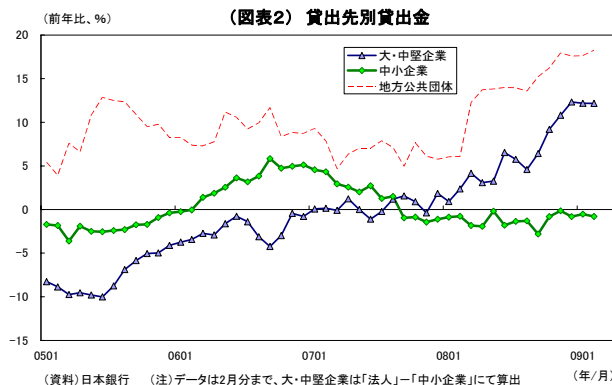
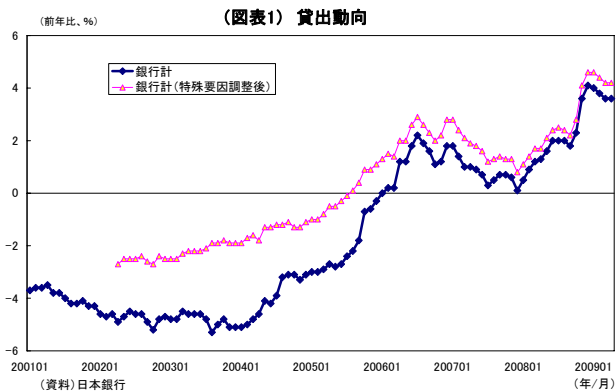
4月マネー関連： 銀行貸出の伸びに一服感

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：伸びは前月比横ばい

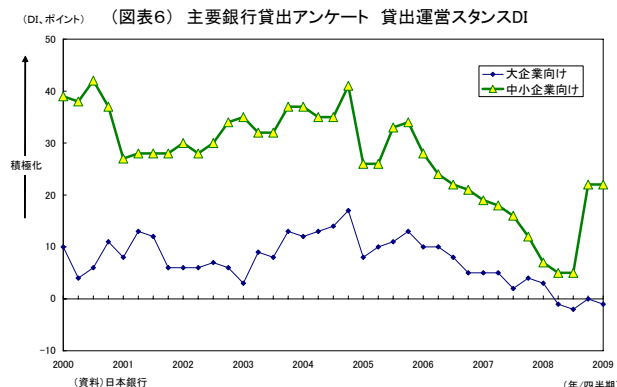
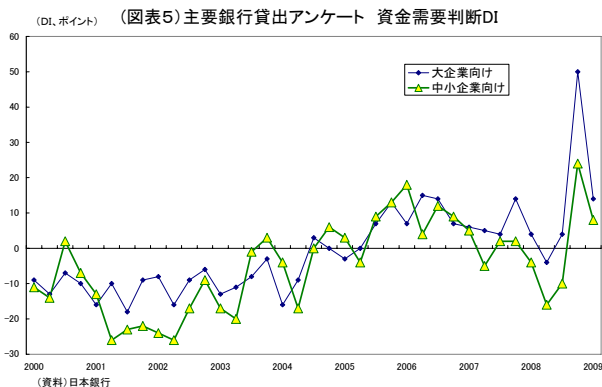
貸出・資金吸収動向等によると、4月の銀行総貸出（平残）の伸び率は前月と同じく前年比 3.6%となった。2008年12月をピークに伸びは一服してきている。CP・社債市場の機能が回復する中、景気悪化に伴う設備資金需要の低迷が影響してきている。

ただし、大企業向けと中小企業向けでとりわけリーマンショック以降の伸び率に大きな乖離が存在している点には注意が必要だ。構図としては、大企業は中長期的に当座比率が低下していたため、リーマンショック後に社債・CP市場の混乱もあって手元流動性危機に陥り、急速に借入需要が拡大、貸出が増加した。一方、中小企業は90年代末の金融危機における貸し渋りを受け、以降に手元流動性を積み上げてきたため、当初は手元資金で対応。その後不況の長期化に伴って借入需要が生じたが、金融市場では社債でのスプレッド格差拡大に見られるように信用力による選別が厳しくなっており、政府の緊急保証制度による信用補完を積極活用しつつ辛うじて借り換えを行ってきた状況がうかがわれる。（図表1～4）



2. 主要銀行貸出動向アンケート調査：貸し手から見た資金需要の伸びは大幅鈍化

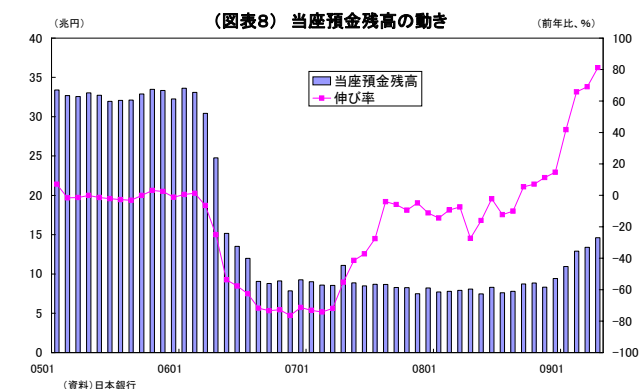
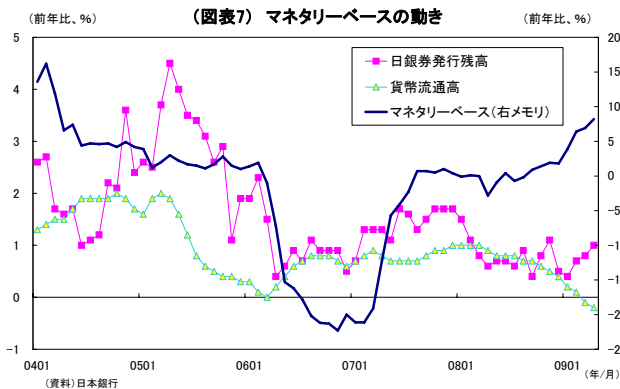
主要銀行貸出動向アンケート調査によれば、銀行側から見た 2009 年第1四半期の企業の資金需要 DI は大企業(前期比▲36)、中小企業(同▲16)ともに大きく低下。依然としてDIのプラス、すなわち需要の増加自体は続いているが、需要が急増した前期の状況からは、売上減少に伴う必要運転資金の減少、設備投資の減少、直接調達へのシフト(大企業)などを要因としてペースが大きく鈍化。なお、銀行の貸出運営スタンスDIは中小企業向けで22と引き続き貸出への積極化を示している。(図表 5,6)



3. マネタリーベース：日銀の大規模資金供給を反映し、当座預金残高は引き続き大幅な伸び

4月のマネタリーベースは、前年同月比 8.2%増と4ヶ月連続で伸び率が拡大。2004年3月(同 11.9%)以来約5年ぶりの高い伸びを記録。(図表 7)

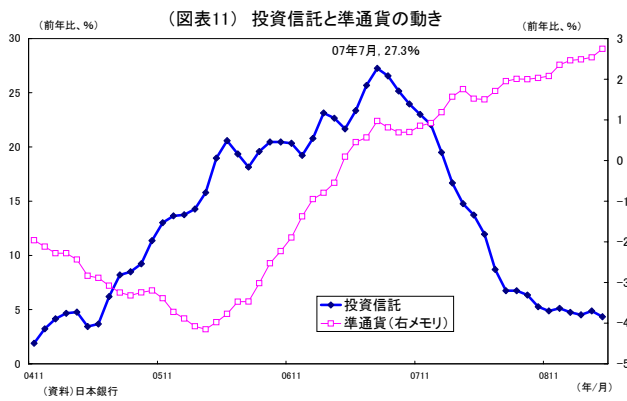
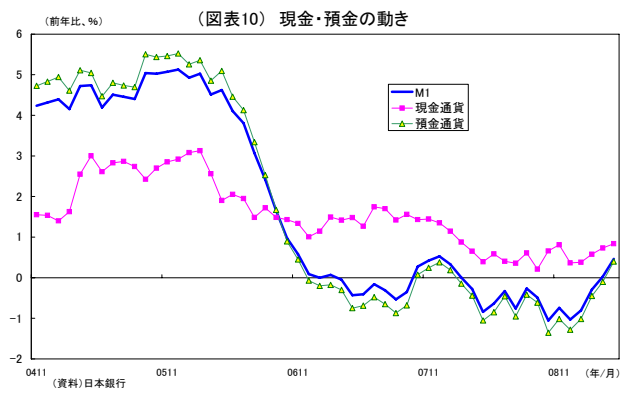
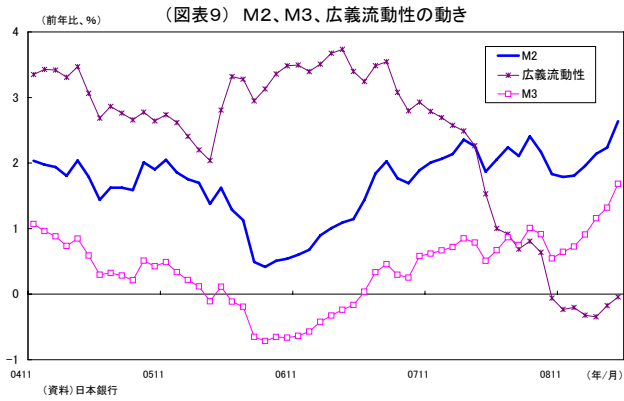
金融市場の安定化に向けた日銀の大規模資金供給ならびに日銀当座預金への付利(0.1%)などから、同当座預金残高が前年比 81.2%増と大幅な伸びを記録したことが要因となっている。(図表 8)



4. マネーストック：リスク回避の動きが続く

M2(現金、国内銀行などの預金)は4ヶ月連続、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は6ヶ月連続で伸び率が上昇、これに信託などを含めた広義流動性も伸び率マイナスを概ね解消した(図表 9, 10)。当月は定額給付金原資の自治体振込みに伴う公金預金増という特殊要因もあった。

投信の伸び率がリーマンショック以降5%前後に低迷する一方で、定期預金など準通貨の伸びは拡大を続けており、リスク回避目的による安全資産へのシフトの動きが継続している(図表 11)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。